

# 高大連携と地域活性化を目指したアクティブラーニング

～福岡県立福岡農業高等学校の取組みと日本経済大学の支援～

The Active learning aimed at Univ-High School Collaboration and regional revitalizeization

市川 千尋<sup>※</sup>

Chihiro Ichikawa<sup>※</sup>

## 内 容

- I、はじめに
- II、福岡農業高校における地域活動
  - (1) 「梅研究班」の実践的な活動と販売への取組み
  - (2) ビジネスプランコンテストへの参加
- III、日本経済大学による支援の実施
  - (1) 平成28年度ビジネスプランコンテスト参加に際する学習支援
    - ①模擬授業（平成28年9月27日）
    - ②模擬授業（平成28年11月3日）
  - (2) 平成29年度ビジネスプランコンテスト参加に際する学習支援
    - ①模擬授業（平成28年10月27日）
  - (3) 「未来を切り拓く人材育成事業」における起業体験セミナー支援
    - ①第1回セミナー（平成29年11月17日）
    - ②第2回セミナー（平成29年12月8日）
- IV、今後の展望について

## I、はじめに

福岡県立福岡農業高等学校（以下 福岡農業高校と称する）は、福岡県太宰府市小佐野250にある県立高等学校である。本校は明治12年、我が国を代表する先導的な農業指導者の育成を目的に、勸業試験場の附属農学所として誕生し、14,000人を越える卒業生を世に送り出している<sup>(1)</sup>。

福岡農業高校の食品科学科では、地域貢献を重要な教育目標として掲げている。食品科学科の「梅研究班」では、太宰府市の名産である梅を使用し、公的機関・企業と連携しさまざまな食品開発を行っている。「梅研究班」の特徴として、生徒は食品開発を行うだけでなく開発された食品について、各企業との営業交渉から販売まで一貫して携わっており、大きな教育成果を得ている状況である。本講ではこのような農業高校が生徒教育の一環として実施している『高校生ビジネスプランコンテスト参加』および『食品科学科未来を切り拓く人材育成事業企業体験セミナー』について、日本経済大学が支援したアクティブラーニングの実施例を記してみたい。

---

<sup>※</sup>日本経済大学経済学部経営法学科

(1) 福岡農業高校ホームページ <http://fukuoka-agr.fku.ed.jp/Default2.aspx>（平成30年7月9日）

## II、福岡農業高校における地域活動

### (1) 「梅研究班」の実践的な活動と販売への取り組み

福岡農業高校食品科学科の「梅研究班」では、前述のように太宰府市で産出された梅を活用し、多くの食品開発を行っている（図1）。

図1 福岡農業高校の開発した商品例



太宰府市近隣の農家および福岡農業高校内で産出した梅をペースト状に加工し、それらをもとに梅ドレッシング、梅ジャム、梅サイダー、カレー等の商品開発を実施している。また、ポテトチップスのメーカーであるカルビー(株)社や、福岡銘菓「めんべい」メーカーである(株)山口油屋福太郎社と提携してコラボレーション商品を次々と開発している。「梅研究班」では、それらの商品を開発するばかりではなく、地元スーパーやショッピングモールに生徒に生徒自ら赴き、消費者に向けセールス活動を実施するという。これらの活動は生徒に生産から流通まで商品のライフサイクルを深く学習できる利点がある。

さらに、福岡農業高校では地域の主要な交通インフラである JR 九州社等も提携しており、生徒による「車内販売」を実施し、福岡近隣に來訪する観光客に対し販売を行っている。

### (2) ビジネスプランコンテストへの参加

福岡農業高校では、前述のように多くの商品の開発・販売に携わってきたが、これらの活動について生徒自ら深く向き合い、より広く活動を知ってもらうため、コンテストのような場でプレゼンテーションを実施することにより客観的な評価を得、生徒のさらなる自信につなげたいとの教員の希望が

図2 日本経済大学高校生ビジネスプランコンテスト2016



ら、平成28年度日本経済大学の主催する「高校生ビジネスプランコンテスト2016」に参加した（図2）。

このビジネスプランコンテストは、福岡県太宰府市にある日本経済大学が主催しており、平成28年11月13日に福岡県福岡市中央区で実施された。全国から100件以上の応募があり、その中から11月13日の本選には14校が参加した。結果として福岡農業高校は最優秀賞を逃したものの、準優勝である優秀賞を獲得した<sup>(2)</sup>。

### Ⅲ、日本経済大学による支援の実施

#### (1) 平成28年度ビジネスプランコンテスト参加に際する学習支援

筆者が日本経済大学の教員であり、この高校生ビジネスプランコンテストの事務局にも関係していたことから、コンテスト参加に際して福岡農業高校の教員より模擬授業開催の依頼があり、アクティブラーニングを実施するに至った。

この模擬授業は、平成28年9月27日と11月3日の2回実施した。

##### ① 模擬授業（平成28年9月27日）

- 授 業 対 象：食品科学科「梅研究班」11名
- 授業の目的：コンテストの概要、商品の開発・販売に際し基本となる事を学ぶ
- 授 業 時 間：午前10：00～午前11：00
- 授 業 内 容：
  - 「高校生ビジネスプランコンテスト」の概要について
  - コンテスト参加校のプロフィールやコンテストの進め方などを講演

(2) 日本経済大学ホームページ <http://fukuoka.jue.ac.jp/news/index.html?id=45082&pid=18432>（平成30年7月9日）

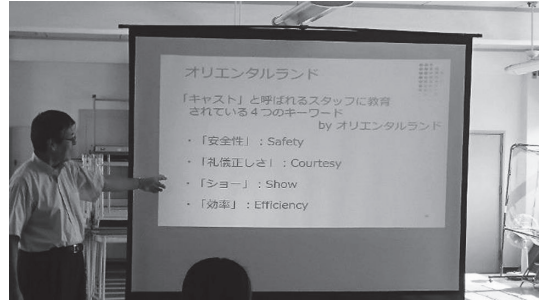
●「東京ディズニーランドにおける経営学」

東京ディズニーランド（オリエンタルランド）の成功は顧客目線が根底にあり、同社は現在もさまざまな挑戦を続けている。

商品開発においても顧客目線を考えていく必要があることを講演。

生徒からも活発な質問があり、大変有意義な授業となった（図3）。

図3 模擬授業の様相



②模擬授業（平成28年11月3日）

○授業対象：食品科学科「梅研究班」11名

○授業の目的：発表リハーサル、本選発表に向けたアドバイス等

○授業時間：午前10：00～午前11：00

○授業内容：

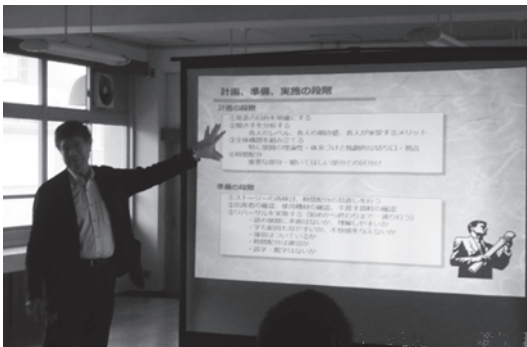
- 本選発表リハーサル

「梅研究班」が本選発表のリハーサル実施。講評を行う。

- 「説得力のあるプレゼンテーションについて」

プレゼンテーションの計画、準備、実施の段階での留意点。また、審査員や聴衆の前で堂々とプレゼンテーションを行うには、言葉や言葉以外のテクニックでどのようなものがあるか講演。前回と同様に生徒から活発な質問があり大変有意義だった。なお、本授業の様相はケーブルステーション福岡で取材され、後日放映された。（図4）

図4 模擬授業の様相と取材



この2回におよぶ模擬授業実施の後、平成28年11月13日の本選において、福岡農業高校は優秀賞を受賞した。

## (2) 平成29年度ビジネスプランコンテスト参加に際する学習支援

平成29年度の「高校生ビジネスプランコンテスト」においても、コンテスト参加に際して福岡農業高校の教員より模擬授業開催の依頼があり対応した(図5)。

図5 日本経済大学高校生ビジネスプランコンテスト2017



この模擬授業は、平成28年10月27日に実施した。

### ① 模擬授業 (平成28年10月27日)

- 授業対象：食品科学科「梅研究班」8名
- 授業の目的：今回のコンテスト概要、対策について
- 授業時間：午前10:00～午前11:00
- 授業内容：

- 今年度の「高校生ビジネスプランコンテスト」の概要について  
コンテスト参加校のプロフィールやコンテストのスケジュール等
- 「SWOT分析」と福農プラン

福岡農業高校ビジネスプランの強み・弱み・機会・脅威を分析。発表における「力の入れどころ」を簡単に説明した。今回も生徒からも活発な質問があり、大変有意義な授業となった(図6)。

なお、福岡農業高校は模擬授業実施の後、平成29年11月12日の本選において、今回は最優秀賞を受賞した。

図6 模擬授業の様様



### (3) 「未来を切り拓く人材育成事業」における起業体験セミナー支援

平成29年のビジネスプランコンテストで最優秀賞を実施したことにより、福岡農業高校における当面の目標は達成できたが、次年度のコンテストに向けた対策と生徒のビジネス教育について今後も持続して進めていく必要が生じた。

食品科学科では、「未来を切り拓く人材育成事業 起業体験（ビジネスプラン）セミナー」を日本経済大学と連携し実施することにより、『地域や社会の課題を活かして解決し、新しい未来を構築する』<sup>(3)</sup>ため、2回にわたるセミナーを計画した。

第1回 平成29年11月17日 11:00～13:00

第2回 平成29年12月8日 11:00～13:00

今回も福岡農業高校の依頼により、筆者が対応した。これまでの模擬授業との相違点は、「梅研究班」だけではなく、食品科学科（約40名）の生徒に対して、「体験的な」アクティブラーニングを駆使した起業セミナーを実施する必要性があった。

#### ①第1回セミナー（平成29年11月17日）

- 授業対象：食品科学科 約40名
- 授業の目的：ビジネスアイデアを考え、プレゼンテーションを行う
- 授業時間：午前11:00～午後1:00
- 授業内容：

- ビジネスアイデアを考えよう！

ビジネスコンテストにビジネスプランを応募したり、起業する際に一番重要なのはビジネスアイデアを数多く出すことである。そのために何をするか、「オズボーンのチェックリスト」等を利用しながら楽しく案を考えてもらう。（個人作業が主）

- グループに分かれ発表する

40名を6つほどの班に分け、リーダー選び（自薦他薦）実施し代表アイデアを選出。グループリーダーが代表アイデアを発表する（代表アイデアは1案だけでなくても良い）。班に分

(3) 平成29年度食品科学科未来を切り拓く人材育成事業起業体験セミナー実施について 2018年11月

かれると皆で楽しくアイデアを吟味しているのが感じられた。他の班員に自分のアイデアの長所短所を指摘され、改良を加えている姿もあった。福岡農業高校にて事前にOHPを準備いただいたため、発表の際にリーダーや班員が手書きで作成した原稿を拡大し全員に投射することが可能となった。これにより、より効果的な発表が実施できた。

● 次回のセミナーに向けて（宿題）

次の発表に備え、今日のセミナー内容を踏まえて、「ビジネスアイデアワークシート」を利用し、班毎になるべく多くのビジネスアイデアを考えておく（図7）。

図7 体験授業の様相



個人作業をしているところ



OHPを使用しリーダーが発表する

②第2回セミナー（平成29年12月8日）

○授業対象：食品科学科 約40名

○授業の目的：プレゼンテーションの技術を磨き、それを踏まえ班の全員で発表する。

○授業時間：午前11：00～午後1：00

○授業内容：

● プレゼンテーションの技術を磨こう！

「高校生ビジネスプランコンテスト」入賞者のプレゼンテーション動画を見ながら、先輩のプレゼンのどこが良かったのかを話し合う。

プレゼンテーションスキルは与える情報の量ではなく、少ない内容でもどれだけ多くの事を聞き手に伝えるかが重要である。そのためにもプレゼンテーションの計画、準備、実施について内容を定める必要がある。

プレゼンテーションの言葉・言葉以外のテクニックについて説明する。

● 班全員が参加するプレゼンテーションを実施

「班全員でなるべく多くのビジネスアイデアを考える」事が前回の課題となっていたが、プレゼンテーション技術の本日のセミナー内容を踏まえながら全員で発表を行う。

最初は発表もぎこちなかったが、班の発表が進むうちに寸劇を交えるなど和気藹々とした中で生徒の自信がついてきたような印象であった。思わず目を見張るらしいビジネスプランも数件あり、今後のブラッシュアップが楽しみであった。このような素晴らしい機会を与えて頂いた福岡農業高校食品科学科に感謝したい（図8）。

図8 体験授業の様相



プレゼンテーションについて講義



皆でアイデアを出し合う

#### IV、今後の展望について

福岡農業高校では、平成28年の「高校生ビジネスプランコンテスト」優秀賞受賞の際、日本航空株式会社の審査員の知己を得ることができた。また、主催した日本経済大学が日本航空株式会社と教育連携協定を締結していることもあり、筆者を通じ日本航空株式会社の広報部に連絡したところ、福岡農業高校の地域活性化に寄与する商品開発や販売活動を高く評価して頂いた。

日本航空株式会社では、「受験生応援フライト」というイベントを毎年国立大学二次試験の前に企画している。これは福岡空港から全国に移動する受験生に対し、応援の意味を込めてさまざまなノベルティを配布する等の対応を行っている。

平成28年は2月23日実施されたが、その際福岡農業高校生徒（「梅研究班」）も参加し、彼らが開発・販売しているポテトチップスをゲートで配布し、大変盛大なイベントとなった。福岡近隣のマスコミもこぞって取材し、地域活性化の意味からも大変有意義な活動となった。

平成30年も福岡農業高校生徒の「梅研究班」が参加し、福岡から飛び立つ受験生に対し配布を行った。受験生以外にも多くの観光客やビジネスマンの興味を引き、本年もとても素晴らしいイベントとなった（図9）。

福岡農業高校は太宰府の産品である梅を利用し、農業高校の特性を生かし商品開発を行い、生徒自らその製品を売る。さらに地域活性化を目的に地方公共団体と連携し、ふるさと納税の商品に取り上げてもらう。商品の生産にあたり地域の障がい者施設に協力頂き、障がい者の人の就労支援や所得向上も試みる。

このようなさまざまな実践経験を経たうえで、ビジネスプランコンテストに出場する。彼らがプレゼンテーションを行う内容は重みがあり、さまざまな角度から分析がなされており他行の内容を凌駕したものであった。

このような問題解決型学習は、福岡農業高校という素晴らしい教育環境や、担当教員の親身な指導、JAL等企業の協力、地域の理解等多くの支援により成り立ったものと考えられる。

将来の展望として、今以上太宰府の地域活性化の拠点としての活動が期待されている状況となって



図9 平成30年「受験生応援フライト」



皆でノベルティを準備する



JALの皆さんと受験生応援フライトを実施

いる。ただ、高校生の活動期間は3年と短いため、今後どのようにこのような素晴らしい活動を継承し、次の世代に受け渡していくかが課題となっている。